

1. 第46回日本医学教育学会大会

羽野 卓三（和歌山県立医科大学）

第46回日本医学教育学会大会は、2014年7月18（金）、19日（土）、和歌山県立医科大学紀三井寺キャンパス（6講演会場、2ポスター会場）において開催された。大会長は岡村吉隆理事長・学長、実行委員長は教育研究開発センター長の羽野卓三が務めた。口頭発表235題、ポスター発表116題、インターナショナルセッション38題の総数389題の発表があった。参加者は1,132名と過去最多で、海外からの参加者も約80名あり、東南アジアからの参加が目立った。

主題は、本学の精神的ルーツである華岡青洲の言葉に因んで、「活物窮理—医学教育の本質を求めて」とした。また、英文の主題はグローバル化と同時に大学としての個性、特質が求められることから「Globalization and Identity of Future Japanese Medical Education」とした。東京女子医科大学の神津忠彦先生から「アイデンティティとグローバル化の調和」についての基調講演、

Dr. Issenbergから「医学教育におけるシミュレーション教育」、全米看護連盟CEO、Dr. Bebery Maloneから「看護教育におけるシミュレーション教育」について特別講演がなされた。本学会から学生自身の企画によるシンポジウム「学生の立場からの医学教育への提言」を新たな試みとして行った。プレコンGRESは、「基礎医学の講義・実習のよいモデル」に関して、学生を対象として実習形式で行った。和歌山における医学史講演会として「和歌山が生んだ医聖・華岡青洲が果たした日本の外科学史における役割」とする講演を開催した。参加者が能動的に参加できるものとして、シミュレーションハンズオンやシミュレーション講習会を開催した。また、全国の医学生の臨床技能競技会である「シムリンピック」を初めて開催した。本大会では利益相反の観点からランチョンセミナーを行わずに運営した。

2. 第47回日本医学教育学会大会

澁谷 雅子、鈴木 利哉（新潟大学総合医学教育センター）

第47回日本医学教育学会大会は、2015年7月24日（金）、25日（土）、新潟大学医学部が主管して新潟市朱鷺メッセにて開催した。名誉大会長は高橋姿、大会長は牛木辰男、実行委員長は鈴木利哉が務めた。

基調テーマは「不易流行—日本の医療を支える

人材育成としての医学教育—」“Continuity and Change of Medical Education for Health Care Professionals in Japan”で、演題総数は395（口頭発表247、ポスター発表95、インターナショナルセッション27、学生ポスターセッション26）、参加者は1,207名であった。7月26日（日）に「シ